

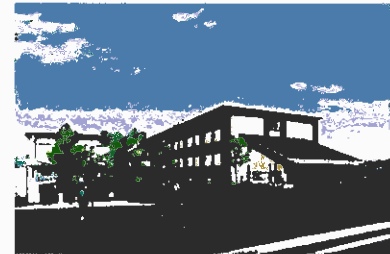
この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2016年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE® 新築 [簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (簡易版) 2010年改訂版Ver.2 (BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010bpi&bei(v.2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	柳倉小学校	階数	地上3F
建設地	京都府木津川市山城町袴田局塚14	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	400 人
気候区分		年間使用時間	3,600 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年1月 予定	評価の実施日	2014年5月15日
敷地面積	10,366 m ²	作成者	株式会社コム・キューブ
建築面積	1,223 m ²	確認日	2014年5月29日
延床面積	3,356 m ²	確認者	担当: 内田



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★☆☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%
②建築物の取組み: 39%
③上記+②以外の: 39%
④上記+: 39%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境 (敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項

総合
改築工事の目的である耐震性能の確保を第一に、交通・健康等の面でも児童の安心・安全を最優先に設計を行った。

その他
児童の学習環境の維持、地球環境・敷地周辺への配慮、コスト削減のため、仮設校舎は設置せず、敷地内の空地部分に校舎を増築し、増築完了後に既存校舎を解体する計画とした。

Q1 室内環境

屋上、壁、最下階床には、断熱を施し、室内環境の向上を目指す。児童の健康に配慮し、居室の内装仕上げは、床・壁・天井・建具・システムキッチン・家具類すべて規制対象外☆☆☆☆の材料を使用する。

LR1 エネルギー

屋上に太陽光発電装置を設置し、自然エネルギーを活用する計画とした。

Q2 サービス性能

地域の避難所に指定されている施設であることから、耐震性の確保、過重のゆとりにも配慮した計画とした。躯体の耐用年数、空間の自由さにゆとりを持たせ、将来的な原単位の削減など、運用の変化にも対応できるように計

LR2 資源・マテリアル

又、フロン・ハロンを使用した発泡断熱剤は使用しないなど、有害物質を含まない材料を採用する計画とした。

Q3 室外環境 (敷地内)

既存の遺跡(運池石組樋門(江戸時代))を移設して存置する計画とし、歴史的遺構を保存する計画とした。また、居室の腰壁に京都府内産木材を張る内装計画とし、地域固有の風土、歴史、文化の継承に寄与する。

LR3 敷地外環境

敷地内に十分な駐車場、駐輪場、管理車両の荷降ろし場を設け、周辺道路の交通に支障が出ないよう計画した。又、敷地内北側に駐車場を配置しているため、敷地外への日影の影響が少ない計画となっている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される